

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol.29



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2022 Spring-Summer

2022年春夏号

- 古代体験研究フォーラム2021
「知的障がい・発達障がいのある子どもも楽しめるワークショップデザイン」
- 大中遺跡発見60周年記念春季特別展「弥生集落転生—大中遺跡とその時代—」
- 夏季企画展「ひょうご発掘調査速報2022—五国の逸品—」
- 加西分館「古代鏡展示館」春季企画展「漢王朝のやきもの」

古代体験研究フォーラム2021 報告

「知的障がい・発達障がいのある子どもも楽しめる ワークショップデザイン」

日時 令和4年1月20日 10:00~16:00
(オンライン開催)

1 古代体験研究フォーラムとは

考古系ワークショップ「古代体験」の内容充実を目指し、関係機関と情報交換するために毎年開催しているフォーラムです。令和3年度は、知的障がい・発達障がいのある子ども達も楽しむことができる古代体験の開発をテーマに実施しました。

2 実施の背景

近年、当館では放課後等デイサービスや特別支援学校の児童の来館が増えています。令和3年度は、来館団体のうち、4分の1が障がいのある方の団体でした。

さらに、当館は10年以上前から様々な場面で兵庫県立東はりま特別支援学校と連携してきました。その内容は、館内での生徒・児童の作品展開催やインターンシップ、遺跡公園での清掃活動など多岐に渡ります。また、当館はこれまで、来館した障がいのある子ども達に組紐づくり等の古代体験を提供してきましたが、興味を持ってもらえないことも多く、子どもたちがもっと楽しめるものを開発すると共に、提供する際の留意点や手段のスキルを高めたいという思いがありました。

このような背景から、すべての人にとって、より開かれた博物館づくりを進めるために今回のフォーラムを企画しました。

3 実施方法・参加者

今回のフォーラムは、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、オンライン（Zoom）で実施したところ、日本全国のミュージアム関係者を中心として、113名の申し込みがありました。

知的障がい・発達障がいについて理解を深めるための特別支援教育の専門家による講演と、障がいのある方を対象として先進的なプログラムを実施している博物館・大学の担当者による事例紹介を基本とし、さらに、オンライン上の参加者と共にトークセッションを行いました。

古代体験研究フォーラムちらし

4 内容

(1)関西学院大学 菅原伸康氏より

「^が障^いのある子どもの理解と支援の在り方」についてご講演いただきました。知的障^がいのある子どもとのコミュニケーション等について、わかりやすく教えていただきました。

(2)明治大学 駒見和夫氏より

「博物館がつむぐ特別支援学校との学び」について、障^がいの有無に関わらず博物館を活用できるようにすることの重要性や、特別支援学校教員を対象とした博物館利用の研究成果についてお話しいただきました。また、特別支援学校の生徒を対象としたワークショップの事例についてもご説明がありました。

(3)国立民族学博物館 信田敏宏氏より

「みんなく Sama-Sama塾－国立民族学博物館における知的障害者を対象とした学習ワークショップの試み－」についてお話しいただきました。国立民族学博物館では、知的障^がいのある方々を対象として、知識や教養を学ぶ先進的なプログラムを実施されています。Sama-Sama塾での講義の工夫など、実践的な内容についてお話しいただきました。参加者が楽しかったと思えるように、自由度が高くストレスのないプログラムにする配慮がなされており、今後の体験講座のヒントになる内容が盛り沢山でした。

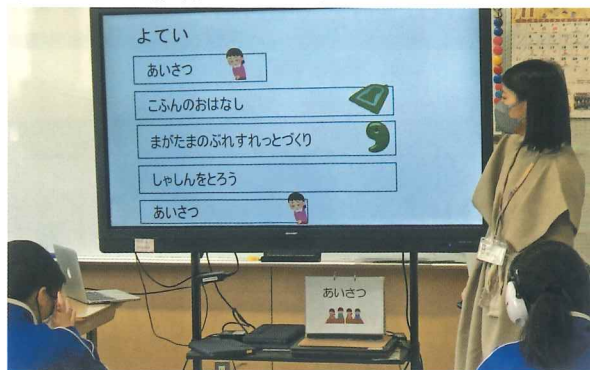
(4)日本科学未来館 田中沙紀子氏より

「未来館の特色を生かした、特別支援学校との連携」について、大学と連携して特別支援学校で実施している科学ワークショップについてご講演いただきました。最先端の科学技術を活かして、障^がいのある子どもも楽しめるワークショップを実施するために、様々な配慮をしていることが紹介されました。科学のような難解に見えるものでも、創意工夫することで障^がいのある子どもも参加できる体験になるという報

告は、多くの参加者の励みになりました。

(5)兵庫県立考古博物館 新田宏子

「知的障^がい・発達障^がいのある子どもも楽しめる古代体験」について発表しました。特に東はりま特別支援学校で小学部6年生と中学部3年生を対象に、「やよいのくらしをしろう」「古墳を知ろう」というテーマで計7回実施した出前授業について報告しました。



県立東はりま特別支援学校での出前授業

(6)東はりま特別支援学校 早瀬確氏

当館の出前授業を例として「ワークショップデザインの具体的な工夫」について教えていただきました。知的障^がい・発達障^がいのある子どもを対象として授業を実施する際の留意点について、実践的かつ具体的な参考になるお話でした。

(7)最後に

参加者を交えて、「博物館が知的障^がい・発達障^がいのある子ども達にとってより開かれた場所になるためにどうすればよいのか」というテーマでトークセッションを実施しました。参加者からは、触れる体験の必要性や、大声を出しても許される時間を設定する等の意見が出されました。

5 今後に向けて

フォーラム実施後のアンケートでは、参加者から「支援のノウハウが体系的にまとまっていて非常にわかりやすく、まだ実施に至っていない施設にとっては最初の一步を踏み出しやすくなるような内容だった」「特別支援学校での出前講座を、自館での実現に向けて考え進めていきたい」という意見がありました。当館も、来年度からより多くの方に古代体験を楽しんでもらうために、障^がいのある方も気軽に参加できる講座を企画しています。今後の考古博の「みんなが楽しめる古代体験」にぜひご期待ください。

(学習支援課 新田宏子)



オンライン配信の様子

大中遺跡発見60周年記念 春季特別展

「弥生集落転生 —大中遺跡とその時代—」

期間：令和4年4月23日(土)～7月3日(日)

兵庫県立考古博物館のある大中遺跡は、令和4年で発見から60周年を迎えます。多様な形態をもった竪穴住居が数多く見つかったことで注目され、播磨を代表する弥生集落として国史跡に指定されている大中遺跡ですが、弥生時代を通して大規模な集落であったわけではなく、弥生時代の終わりから古墳時代へ社会が変わろうとする時期に突如として大きな集落に成長しました。

この頃には鉄の道具が普及し、石斧で木を切り石包丁で稲を収穫するといったそれまでの生活スタイルが大きく変化しました。『魏志倭人伝』に記される邪馬台国の女王「卑弥呼」が活躍したのもこの時期で、ムラからクニへと日本列島の中で社会が大きく動いた時代でもあります。

本展覧会では、大中遺跡が弥生社会の中でどのような存在であったかを考えるために、多彩な竪穴住居や中国からもたらされた鏡に加え、鉄器の広がりや周辺遺跡の動向にもスポットを当て、弥生集落の謎に迫ります。初公開の資料や最新の研究成果をもとに、新たな視点から見る大中遺跡の姿をお楽しみください。

・(学芸課 藤原怜史)



大中遺跡出土鏡 (播磨町郷土資料館蔵 写真提供)



大中遺跡上空から播磨灘と淡路島を望む

夏季企画展

「ひょうご発掘調査速報2022 —五国の逸品—」

期間：令和4年7月23日(土)～8月28日(日)

兵庫県教育委員会が令和3年度に実施した登り田遺跡(姫路市)・市場南山1号墳(小野市)などの発掘調査と、津万遺跡(西脇市)・音谷1号墳(朝来市)などの出土品調査の成果を一堂に公開する速報展です。あわせて、県内各地から出土した県指定文化財を展示し、地域色豊かな兵庫五国の姿を紹介します。

(学芸課 菱田淳子)



津万遺跡出土 土壇墓副葬品(方形鏡・鉄ほか)

加西分館「古代鏡展示館」春季企画展

「漢王朝のやきもの」

期間：令和4年3月19日(土)～9月11日(日) 休館日：水曜日

※3月23日(火)～5月10日(火)は無休

漢代は、一時期を除き、400年もの長きにわたり統一国家として安定を保った時代です。中国を初めて統一した秦の末期から前漢にいたる時代は、戦乱で国土が疲弊していましたが、第5代文帝と第6代景帝の頃(前180年～前141年)には、社会が安定し漢王朝の基盤が固まりました。「文景の治」と呼ばれるこの時代は、経済的発展と祖先崇拝を基本とする儒教の広がりとは相まって、以前より下の階層まで丁重な葬礼を行うようになり、高価な青銅器や漆器に代わり墓に納めるやきもの(明器)が普及するようになっていきました。漢代は多くの種類のやきものが作られた時代で、褐釉陶や緑釉陶といった鉛釉陶が本格的に作られるようになりました。

本展では、令和3年に新しく千石コレクションに加わった焼成や胎土、色や紋様などが異なる多様な漢王朝時代のやきものを紹介します。

(加西分館 村上賢治)

前221	前206	後8	後25	後220
秦	前漢(西漢)	新	後漢(東漢)	三国時代

漢王朝の推移

前：紀元前 後：紀元後

展覧会関連行事

●講演会「漢王朝のやきもの」

要予約

7月9日(土)

講師／村上賢治(当館学芸員)

時間／13:30～15:00

会場／古代鏡展示館2階会議室

定員／先着20名

対象／中学生以上

予約／6月11日(土)～

●学芸員による「ギャラリートーク」

要観覧券

※事前予約不要

学芸員が展示の見所を紹介します。

4月9日(土) 5月14日(土) 6月11日(土)

時間／13:30～14:00

会場／古代鏡展示館 展示室



黒陶双耳壺(前漢)



灰陶加彩龍紋罎(漢)



緑釉鍾(後漢)



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。

兵庫県立考古博物館
Hyogo Prefectural Museum of Archaeology

■休館日：月曜日(祝休日の場合は翌平日)

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL 079-437-5589

FAX 079-437-5599



考古博物館 HP



兵庫県立考古博物館 加西分館

古代鏡展示館
Hyogo Prefectural Museum of Ancient Bronze Mirrors

■休館日：水曜日(祝休日の場合は翌平日)

〒679-0106

兵庫県加西市豊倉町飯森1282-1

兵庫県立フラワーセンター内

TEL 0790-47-2212

FAX 0790-47-2213



加西分館 HP

兵庫県立考古博物館NEWS
vol.29 2022 Spring-Summer

発行年月日 令和4年3月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

<https://www.hyogo-koukohaku.jp/>